

令和3年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価 (3月31日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
1	教育課程 学習指導	①生徒の確かな学力の定着と学習意欲の向上につながる組織的な授業改善に取り組む。 ②国際理解教育を推進し、多様な価値観を受容する力を育む。 ③生徒会活動・学校行事等の活性化に取り組む、自己有用感やリーダーシップを育む。	①・新学習指導要領に応じた各科目の年間指導計画を策定する。 ・「主体的・対話的で深い学び」を組織的に研究・実践し、授業改善を促す。 ②国際理解教育をとおして自己理解を深め、他者との協働的な学びを充実する。 ③学校行事や委員会活動、生徒会活動を活性化化する。	①生徒一人ひとりの学習や進路等の目標を踏まえ、社会が抱える諸課題に対応できる資質・能力の育成をめざした年間指導計画の策定を教科等横断的な視点で検討する。 ・「主体的・対話的で深い学び」の授業実践をとおり、生徒による授業評価等授業改善がみられたか。 ②ワークシートや振り返りシート等の記載内容や生徒の行動の変容があったか。 ③会議の開催状況とそれに伴う活動実績(生徒満足度等)があったか。	①各科目及び教科横断的な視点で年間指導計画の策定を進めることができたか。 ・「主体的・対話的で深い学び」の授業実践をとおり、生徒による授業評価等授業改善がみられたか。 ②ワークシートや振り返りシート等の記載内容や生徒の行動の変容があったか。 ③会議の開催状況とそれに伴う活動実績(生徒満足度等)があったか。	①新学習指導要領に応じた各科目の単元の指導と評価の計画の策定を教科横断的な視点で検討した。 ②留学生との交流会及びその取組についてのポスター制作、キャリアガイダンス等を通じてキャリア形成を支援した。また、自己PR文を書くことにより自己理解が深まっているか。 ③生徒会執行部の定例会は年間15回実施した。生徒会新聞の掲示や文化祭の企画など生徒主体の活動ができた。	①策定した各科目の単元の指導と評価の計画に基づいて授業を実施し、その結果をもとに再度検討する。 ②毎年の積み重ねによって、「総合的探究の時間」の学習内容は精選されてきている。1・2学年での取組が、3学年での進路選択や実績に活かされているか総括していきたい。 ③生徒会執行部の活動を定着させる。生徒会から各種委員会に働きかけ学校全体として委員会活動を活発にさせる。	①観点別評価が4観点から3観点に変更になる関係で対応できている生徒とそうでない生徒で格差が広がっている。生徒に応じた対応について検討するとよい。 ②国際理解教育を推進していく中で他者理解が定着し、外国にルーツを持つ生徒が活躍できていることが評価できる。	①新学習指導要領に応じた各科目の単元の指導と評価の計画の策定を教科横断的な視点で検討できた。今後は学習改善につながる評価等を検討することで個々の生徒に応じた対応を考えていく。 ②自己PR文の記載内容から自己理解が深まっていると評価できる。1～2年での取組が、3年での進路選択や実績に活かされているか総括が必要。 ③定例会が定着し、PR活動や行事の成功につながった。今後は委員会活動の活性化につなげる。	①策定した各科目の単元の指導と評価の計画に基づいて授業を実施し、その結果をもとに各科目ごとに再度検討する。 ②総括するための観点等からグループ等で研究を深める。 ③各種委員会の委員長との合同会議を開催する。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①生徒一人ひとりが規範意識を持ち、自立に導かれた意思決定と、正しい行動様式を選択できるよう自己指導力を高め、現在および将来における自己実現を図る。 ②部活動の活性化に取り組む、責任感や自己肯定感を育む。	①生徒一人ひとりが規範意識を持ち、自立に導かれた意思決定と、正しい行動様式を選択できるよう自己指導力を高め、現在および将来における自己実現を図る。 ②入部率40%以上を目指す。(入部後の退部者をへらす) ・生徒が部活動に取り組むやすい環境を整える。	①日常的な生徒への声かけを徹底するとともに、分かりやすく丁寧に校則等の理解を図る。また、インクルーシブの観点から視覚的な指示表示によるルール等の整備を行う。 ②部活動見学週間に各部の説明会を開催する。部活動総点検の結果を活かす。 ・生徒数の減による生徒会予算減収に伴い生徒活動が縮小しないよう生徒会活動等工夫する。	①年間の生活指導件数が減少したか。また、個別の指導が適切に計画・実行され、その後の生徒の行動変容につながったか。 ②入部率が目標を達成できたか。部活動総点検の結果を踏まえ、具体的な方策を実施することができたか。 ・生徒数の減による生徒会予算減収に伴い生徒活動が縮小しないよう生徒会活動等工夫する見通しが立ったか。	①きめ細かく生活指導に組織的に取り組み、問題行動の予防に努めることができた。必要に応じてSCや児童相談所などと連携して問題解決に努めた。多くの生徒は規範意識を向上させて学校生活を送ることができた。日常の声かけ等の成果もあり、生活指導件数も約30%減少した。 ②全体の入部率は34.6%で達成はできなかったが、部員数が増え活動が活発になった部が見られた。 ・遠征費規定の見直しを行い減収に対応できるよう考え、部活動費の縮小を最低限に抑えられた。	①問題の事案に応じて警察や外部の支援機関との適切な連携を検討していく。また保護者・生徒の変化に伴い、さらに丁寧な対応や組織としての対応も迫られているので、情報の共有は今まで以上に必要である。 ②耐震工事や新型コロナウイルス感染症の影響は大きい。顧問が部活動を見に行ける環境を作り出すことが改善につながる。 ・遠征費の支出増が避けられないので来年度以降も厳しい状況は続くと思込まれる。文化祭の収益や未納分の回収が必要。	①生活指導件数が減少したことは評価できる。 ②上位大会に進んでいる部活動もあって、成果が見られるが、今後とも頑張ってもらいたい。 ③入部率は向上しているが目標までには到達していない。活動を学年中心に常にリアルタイムで共有できるようにする。 ・遠征費規定の見直しができず、苦しい状況は続く。	①常にマニュアル等の見直しを行うとともに、現存するルールについての見直しや評価を、学校全体で実施し、共有していく。月1回の状況の報告や、進行形の案件等、必要な情報を学年中心に常にリアルタイムで共有できるようにする。 ②部活動アピール週間に補助金を出す。 ・試合参加費の支出について精査する。文化祭による収益を少しでも得られるよう感染症に注意しつつ平常開催を目指す。	
3	進路指導・支援	○多様な進路希望の生徒にきめ細かく対応するため、3年間の系統的な進路支援体制を充実させる。 ①進路行事の充実を図り、進路活動への意欲を向上させるとともに、進路実現に向けた基礎学力の定着と家庭学習の習慣化を図る。 ②キャリアパスポートや活動記録を作成させ、進路活動に生か	①総合的な探究の時間とおして、生徒の進路活動への意欲を高める。 ・家庭学習の習慣化を図るため学習計画表を作成し、学習の計画と振り返りを実施させる。	①総合的な探究の時間において、生徒の進路選択に向けた意識を高め、進路活動を促進することができたか。 ・家庭学習の習慣化を目標とした学習計画表を作成し、家庭学習の見通しを持たせ、振り返りを行うことができたか。	①総合的な探究の時間において、生徒の意欲向上をねらいとしたキャリアガイダンス、進路講話等の進路行事を実施し、生徒の意欲を高めることができた。 ・定期考査に向けて毎回その見直し・振り返りを目的とした学習計画表を作成した。 ・基礎力診断テストにおいて、各教科との連携を深め、事前課題や結果を学習指導に生かしていく。	①コロナ禍によりオンラインでの実施となった進路行事を再度充実させる。 ・学習計画表を生徒・保護者との面談に活用することで家庭学習の改善を促していく。 ・基礎力診断テストにおいて、各教科との連携を深め、事前課題や結果を学習指導に生かしていく。	①コロナ禍で苦労されているようだが引き続き生徒のため努力していただきたい。 ②キャリアパスポートの活用など検討課題として取り組んでいただきたい。	①コロナの影響を受け、2年続けて予定通り実施できなかった。意識・意欲の喚起のための充実した「総合的な探究の時間」の実施が必要。 ②現1年生の入学後のキャリアパスポートの提出は20名であった。高等学校での活用のために回収方法の検討が必要。 ③スクールメンターとの面談	①各種行事を従来通りの方で実施するのに加え、必要に迫られたとはいえ新たにオンラインでの活動が加わった。生徒の充実した活動のために継続して検討する。 ②キャリアパスポ	

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
		す。 ③生徒との面談体制を充実させる。	・基礎力診断テストを活用し、基礎学力の定着を図る。 ②学期ごとに振り返りの時間を設け、キャリアパスポートもしくは活動記録を記入させる。 ③スクールメンターを活用する。	・基礎力診断テストの振り返りの時間を設けるとともに、結果を分析し、学習指導に生かすことができたか。 ②進路指導・進路活動において活動記録もしくはキャリアパスポートを十分活用できたか。 ③スクールメンター面談の延べ人数が増えたか。	いて、事前課題の徹底や振り返り、生徒向け説明会等を行うことで実効性を高めた。 ②学期ごと、行事ごとにキャリアパスポートもしくは活動記録を作成し、それらをデジタルデータとして活用し、面談や調査書・推薦書の作成に活用した。 ③スクールメンター面談の延べ人数は例年並みであった。	②今年度新入生でキャリアパスポートを持ってきた生徒は若干名であったが、次年度は増加も予想されるため、それらのより効果的な活用方法を検討する。 ③スクールメンターは3学年の就職希望者が主に活用しているが、他学年の生徒や進学希望者にも働きかけ、面談者数の増加を図る。	③スクールメンターについて、もっと間口を広げるように後押ししたい。	によって、生徒の進路選択に関する意識の向上が見られた。令和4年度は対象校とはならなかったのは残念である。	ートについては卒業時に生徒へ渡さずまとめて高校へ送付する中学校などの話もある。高校側としては合格者説明会で保護者にも提出の協力を求めている。 ③スクールメンターについては今後も継続して申請を続ける。学校運営協議会として後押しいただけるとありがたい。
4	地域等との協働 ○地域に開かれた学校、地域から信頼される学校をめざし、地域との連携・交流を推進する。	①本校の活動を活かし、学校説明会や体験的な行事を実施する。 ・地域に開かれた学校として、地域との交流・連携を推進する。	①参加者へのアンケートにより、満足感を得ることができたか。 ・感染防止を徹底し、交流行事を開催する。	①参加者へのアンケートにより、満足感を得ることができたか。 ・交流行事を開催できたか。また生徒が積極的に活躍できたか。	①地域貢献活動や、合同説明会が実施できなかった。学校説明会については、アンケート調査結果も良好であり、第4回目を臨時で開催し、盛況だった。HPの更新に加え、twitterの開設し、広報活動の充実を目指した。 ・お花の会を実施することができた。生徒も参加し、地域の方々と交流ができた。	①12月3日開催第3回説明会後、臨時で第4回目を開催した。その結果、需要があることが分かった。継続を検討していきたい。広報メディアを活用し、広報活動の充実を推進していきたい。 ・感染防止を徹底し、実施できなかったお茶の会を実施する。	①コロナ禍でできることを、しっかりと取組んできたことは評価できる。第4回目の学校説明会の実施は継続してほしい。	① twitter を開設し広報活動の幅を広げることができた。臨機応変な対応で第4回目の学校説明会を実施できた。ホームページの更新等をさらに推進する必要がある。 ・お花の会を開催することができ、生徒も地域の方々との交流ができた。	①グループ業務の再編で、ホームページに係る事項を当グループに移管したので、主体的積極的に取組む。 ・感染症対策を徹底し、お茶の会を開催する。
5	学校管理 学校運営 ①生徒が安全で安心して生活できる教育環境・教育体制の管理に努める。 ②教員の働き方改革を推進するために、学校運営協議会と協働した組織的な学校運営や校務の効率化を推進する。 ③事故・不祥事の防止を徹底する。	①校内研修等とおし、防災意識を高め、防災意識を高める。 ②ICTを活用し、業務の効率化を促進する。 ③職員一人ひとりが、当事者意識を持ち、高い倫理観と法令順守により事故・不祥事の未然防止に取り組む	①・緊急時を想定した非常食等の作り方を学ぶ。 ・ICTを活用したDIG研修を行う。 ②Teamsの打ち合わせ掲示板を利用し、施設、備品等を管理し、業務の効率化を図る。 ③毎月事故防止会議を設定し、職員の意識や態度を醸成する。また、職員間のコミュニケーションを図り、常に複数の目で点検や確認を行うなど、確実な業務の遂行を支援する。	①・緊急時を想定した非常食等の作り方を理解することができたか。 ・ICTを活用したDIG研修を行うことができたか。 ②Teamsの打ち合わせ掲示板を利用したことで、業務の効率化を図ることができたか。 ③職員の事故や不祥事を未然に防ぐことができたか。	①・非常食作りについては、コロナの関係から実施することができなかった。その代替として、非常食を食べる体験を実施した。 ・ICTを活用したDIG研修は、1度に多くのPCを必要とするため実施できなかった。 ②打ち合わせ掲示板での備品等の管理について、業務の効率化を図ることができた。 ③毎月の不祥事防止研修会で全職員に向け、具体的な事例、ヒヤリハットを取り上げ、当事者意識の醸成に努め、概ね未然防止ができた。	①・非常食作りは、やり方を工夫して実施する必要がある。 ・来年度より、1年は1人1台のPCが導入されるため、ICTを活用したDIG研修は実施しやすくなる。2、3年は、早い段階で実施計画を立て、実施日を分割する等の工夫をし、1度に多くのPCを準備できるようにする。 ②打ち合わせ掲示板での備品等の管理については、新規物品についても、即時対応ができるようにする。 ③今後は不祥事ゼロに向け、定期的に研修会を開催するとともに、日頃から声かけを重ねていく。	・今年度実施できなかったことについては、来年度に向け具体的に対策を練る必要がある。	①食の防災訓練については、非常食作りがコロナ禍の中、実施できないことも含め、検討が必要である。 ・ICTによるDIG訓練については、教員への研修を必要とする。 ②新規物品について、担当者だけでなくグループ全体で把握できるようにする。 ③複数回の不祥事防止研修会の実施や資料配付を続けることで職員の同僚性や規範意識は高まった。しかし業務上の事故は無くならなかったことが課題である。	①非常食作りができなかったため、乾パンを食べる訓練を実施した。賞味期限が近いものを活用し、食品ロスを防ぐことができたことから好評だった。来年度以降も継続する。 ・教員へのDIG研修は、夏休みに実施したい。 ②グループ内で、備品を把握できる資料を作成する。 ③不祥事防止に向けて職員間の同僚性をさらに高める研修会を行っていく。ミスを減らすためにはマニュアルの徹底を行い、複数の目で確認する習慣を持たせる。